



RI 会長：ジェニファー・ジョーンズ

2620 地区ガバナー：浅原 諒蔵

会長：妻鹿 政光 幹事：栗原 伸夫 会場監督：山城 一哲

例会：毎週金曜日 19:00 - 20:00

グランドホテル浜松 〒432-8507 浜松市中区東伊場 1-3-1 Tel: 053-450-3003 Fax: 053-450-3006

E-Mail: hamamatsu-naka@ri2620.gr.jp

2022年10月21日(金) 晴 第1598回例会 週報 NO. 11

司 会：三輪久夫 会場監督補佐
点 鐘：山城一哲 会長
ロータリーソング「我らの生業」

会長挨拶



改めて、35 周年記念事業においては無事に大成功を収めることができ、うれしく思っています。これもひとえに実行委員長の渥美聡一郎さんはじめ、会員の皆さんが一丸となってお尽力されたおかげだと感謝しております。本日の例会は「35 周年総括」です。次の 40 周年に向けて意見交換ができればと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

今度の米山梅吉記念館訪問例会では、山口県の下関西 RC と一緒に見学することになっています。下関西 RC は創立 50 周年記念事業をしている歴史のあるクラブです。当日お話を伺うことができたら良いなと思います。また明日はオークラホテルでパワー浜松 RC の 21 周年の記念例会があります。幹事とともに出席します。パワー RC も 20 年という年月を経てきましたが、今でも親である私たち中クラブを目標にしていると聞いております。私たちもお手本となるべき行動をとらなくてはと思います。皆様よろしくお願い致します。

幹事報告



- ・先日の台風 15 号被害に対する義援金募金を行っています。ご協力お願い致します。
- ・例会終了後理事会があります。会場は桃山です。
- ・次週 10 月 28 日は 30 日の米山梅吉記念館訪問に振り替えます。参加されない方は、28 日 18 時半からのメーキャップデスクをご利用ください。

委員会報告

☆川合 広高

公共イメージ向上委員長

前期のファイヤーサイドミーティングは 11 月 8～11 日夜 7 時から 9 時、マインシュロスで行います。議題は「女性会員を増やすにはどうすればよいか」。活発なご意見をお願いします。10 月 25 日までに出席の報告をお願い致します。今回どうしても参加できない方は、レポートの提出をお願い致します。



スマイル

♪山城一哲さん、栗原伸夫さん

本日のプログラムは 35 周年総括です。先日の 35 周年式典から早 5 か月が過ぎるところですが、皆様と一緒に 35 周年を振り返り、また記念事業も継続していけるよう、皆様のお力添えを頂きながら考えていきたいと思ひます。



創立 35 周年

総括と 40 周年に向けて

☆35 周年実行委員長

渥美 聡一郎さん



創立 35 周年から早くも 4～5 か月が過ぎてしまいましたが、改めて振り返ってみたいと思ひます。委員長という大役を任せていただき、実行委員会のメンバーに手伝ってもらいながら、形にしました。非常に良い思い出になったと思ひます。

会員・ご家族の皆様にはご協力いただき、感謝申し上げます。

コロナ禍における周年事業とは、というのが最初の大きなテーマでした。当時は例会そのものの休会も多く、先が見通せない状況で、その中で準備をどのように進めるかが問題でした。通常のように外部からたくさんお客様をお呼びするのは難しいだろうということで、ロータリーの原点、奉仕と親睦に焦点を絞りました。クラブの親睦とシスタークラブとの親睦を深める機会にしたい、それからせっかく若いメンバーの実行委員会に任せてもらったのだから、今までの切り口とは違うものに、という企画運営でした。

良かった点もあれば反省点も多々ありますので、そこを40周年につなげていけたらよいと考えています。

今回、前夜祭で京都の方をおもてなししようということになりました。田邊さんや鈴木晴夫さんが積極的に動いて、恒例の晴夫さんの特別なワインもあり、久しぶりの宴席になりました。京都の皆さんも和やかに場を楽しんでくださっていて、非常に良い雰囲気でした。京都の方のアテンドを中村将義さんが一生懸命やってくれたおかげもあると思いますが、なかなか大変な仕事ですので、次回どのような形にするのか課題でしょう。

翌日の記念式典は、趣向を変えてマインシュロスで行うことにしました。出席者は浜松中RC会員・家族などで50名、それに対して京都さんは会員17名、ご家族13名で計80名になりました。もう少し少ない参加者だと思っていたのですが、にぎやかな会になりました。

ビールもオリジナルのものをつくりました。料理は試食会でいろいろな意見が出て、マインシュロスの担当の方にもいろいろ骨を折っていただきました。

周年の記念品、記念事業は、はたから見ても難しいと思っていましたが、実際難しい所でした。実行委員会が立ち上がってから考えるのはなかなか準備不足になりがちなので、40周年ではそこまでの継続事業や少しずつ積み重ねるような事業の展開ができると良いのではないかと思います。

記念講演を行う意見もありましたが、今回は実行委員会に志賀口さんがいたので、地域社会のサポートの必要な子供たちや青少年の育成を考えました。実行委員会のメンバーで施設の見学もし、必要なものを伺いながら、現金ではなく、寄付の品を贈ることにしました。

障害児入所施設には、子どもたちが元気に遊べる運動器具や玩具が欲しいということで、おもちゃを整理するかごや三輪車、竹馬やホッピングなどを寄付しました。



児童養護施設のほうへは、必要な家具ということで、多目的ルームのテーブルや学習スペースのパーティションを作って贈りました。家具の制作は眞瀬さんの番匠にお願いしました。眞瀬さんからコメントをいただいています。

「親御さんと離れ離れになっている子供たちが余暇を過ごす部屋にテーブルと間仕切りができました。丸テーブルは国産の栗の木を使って製作しました。栗の木は柔らかからず重たからず、広葉樹の素材です。木目も優しいのでこの木を提案しました。部屋は四角張った家具ばかりなので、丸テーブルにし、数名向かい合って座り楽しい雰囲気になるとと思います。」



実際にこれらを使って長く楽しんでいただければよいと思います。一方で、まだ足りないところもあるという印象も持っています。クラブとしても継続して支援を行っていったらと思います。

記念寄付は例年通り行いました。

記念品についてはロゴを作ってみようと、高橋聖子さんにご尽力いただきました。パンフレットやいろいろなところに使って統一感を出しました。記念ビールも中山さんの浜松ビールと将義さんの連理農園のレモンを使って、ほぼオリジナルのものを作りました。さらに地元のぬくもり工房の遠州綿紬セットを選びました。

今回の予算は通常800万くらいのところを500万くらいに抑えようと考えました。人数が少なかった分、かけるところにはかけて、結果当初の予定通り530万円ほどで収めました。

40周年に向けては、一人で企画する規模ではありませんので、実行委員会のメンバー選びから大事になってくると思いました。次年度は会長予定ですので、40周年の足掛かりになるような事業ができればと考えています。

35周年においては良い経験をさせていただき、皆様にもご協力をいただき、どうもありがとうございました。

SAA 司会 三輪久夫さん



出席報告

発表：原 英登 出席委員

会員数	45名
出席者数	25名
出席算定会員数	37名
出席率	67. 57%

前々回出席者数
24名
修正出席率
72. 97%

